

ふるさと歴史アラカルト

岩国と共に闘った京都の商人

今年(明治150年)の年です。皆さんは維新の立役者と聞いて誰を思い起こしますか。今回は、現在開催中の企画展の史料から、岩国を京都から支えた佐野家について紹介します。

佐野家と吉川家の関係は、初代岩国領主となる吉川広家が佐野家を取り立てたことに始まります。以来、佐野家は岩国の呉服御用を担う商人として、資金融通なども行い、京都から岩国を支えました。また宝暦5(1755)年には、京都にある岩国屋敷(京都御用所)を買い受け、私宅兼岩国の公的な出先機関として活用しました。

ところが元治元(1864)年、長州藩は御所に発砲したことで朝敵となり、江戸や大坂にある藩屋敷の召し上げなどの厳しい処分が下されます。京都の岩国屋敷も例外ではなく、幕府からの取り調べを受けました。

佐野家が記した覚書によれば「此節之形勢にては仮令自宅にても御取上私妻子迄も御預けと申時は仕方無御座」とあり、情勢上処罰されると

すれば、京都御用所を佐野家の私宅と主張したとしても、京都御用所の取り上げと同居する妻子の拘留は避けられない、としています。

覚書の後半には「私共は京住仕候様と奉拝承候えは、可相成丈は其分に周旋可仕候え共、何分御沙汰難斗」ともあり、仮にも京都居住が幕府に許されれば長州藩と幕府の仲立ちに奔走する、と述べています。しかし、幕府の裁決が予測できないとも述べており、当時の緊迫した様子がうかがえます。

幕末の岩国における周旋活動と云えば、12代岩国領主・吉川経幹によるものが知られています。経幹の功績が大きいことは言うまでもありませんが、一方でこの佐野家のように、家族や私宅が危機にさらされる中でも岩国のために奔走する人々もいました。

明治150年という節目の年に当たり、これまであまり注目されてこなかった人々についても紹介していきたいと思います。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

佐野家由緒書



佐野家が記した覚書



岩国市 人口・世帯

人口 136,459人 【前月比 - 134人】 男性 64,765人 女性 71,694人

世帯 65,852世帯 【前月比 - 83世帯】 ※外国人人口を含む (平成30年3月1日現在)

交通事故発生件数 2月分事故件数 29件(50件) 死者数 0人(0人) 傷者数 35人(64人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成30年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。 **テレホンサービス ☎231234**

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、広報戦略課広報班へ ☎295016 FAX213337